



命の大切さを学ぼう



着衣泳 水の事故から身を守る

大和市立林間小学校

七月十四日(木)に、林間小学校では五年生五クラス対象に着衣泳の授業が行われました。夏の時期に多い水の事故から身を守るための対処法を学ぶ目的で行われました。講師は学年の先生方が務めました。

水着で準備体操をし、シャワーを浴びた後、先生から、おぼれた人が無理に岸を目指さずことで力尽きてしまうこと、その場に浮いて助けを待つことが大切であることなど着衣泳の意義を学びました。また、水の中でどのようにしたら浮かんでいられるか、足がつかない場所ではどうすればよいかなどを先生が実演して教え、児童は真剣な表情でうなずいていました。



着衣泳の実習になると、児童は

用意してきたTシャツ、長スボン、靴下を身に着け、最後に靴を履いてプールに入りました。最初は学年の半分の児童が体験をしました。はじめにプールを横切る形で歩いて往復し、続いてどのような泳ぎ方でもよいので、泳いで往復しました。

浮かび方の体験では、力を入れずに上を向くと自然に浮き上がること、洋服に空気を取り込んだり、ペットボトルを使うと案に浮かんでいられることを学びました。

体験した児童は「体が重くてびっくりした。」「いつもどおり泳げなかった。」「浮かんでいることが最初はできなかったけど、できて

自分も 他のもも大切

大和市立渋谷中学校

渋谷中学校では、七月十四日(木)に、「思春期の性」をテーマに講演会が行われました。対象は三年生です。「自分も他の人も大切に思える人間の育成」をねらいとし、講師として神奈川県看護協会青少年健康教育育ボランティアを務める保健師の岡順子さんをお招きしました。

三クラス約百人の生徒は、妊娠、性感染症、HIV感染等、普段は詳しく聞くことのない話を真剣な面持ちで聞いていました。深く考えさせるお話を、ユーモアを交えた楽しい語り口で話してくださり、正しい男女交際についてふれる場面では、会場は笑い



うれしかった。おぼれてもあわてないようにしたい。」などの感想を話していました。

声や喚声に包まれていました。

講演後の生徒の感想は、「性是不純なこと、隠すべきことと考えている人は多いと思います。そうではなく、性を知ることと「生」につながっていくということがよくわかりました。」「望まない妊娠をして中絶をするということは、そうしなければいけない人にとっては、殺人をするような気持ちにもなると思いました。講演会で教えてもらったことを胸に、異性ともかかわっていきたくないと思います。」などがありました。

養護教諭の金沢先生は、「学校の先生ではない、専門の保健師さんに話を聞くことは、意義があることだと思います。生徒にとっても新鮮で貴重な経験になったと思います。」と話していました。

防犯の
取り組み

子どもたちを 犯罪から守る

非行防止教室 やっていること わるいこと

大和市立草柳小学校

夏休みを間近に控え、児童が正しく生活ができるよう、草柳小学校で七月十三日（水）に非行防止教室が開催されました。当日は、大和警察署生活安全課少年係・スクールサポーター及び大和少年補導員の皆さんが講師となり、電子紙芝居を活用し



た指導が、低学年と高学年に分けて行われま

した。

はじめに、大和警察生活安全課の方から夏休みの過ごし方についてお話がありました。



次に大和少年補導員の十名の皆さんが協力しながら「考えよう やっていいこと わるいこと」お店の中で」という電子紙芝居を見せてくださいました。体育館のステージに大きく映し出された映像にあわせて、表現力豊かに、感情をこめて、楽しく読んでくださいました。

紙芝居の流れは、「欲しいお菓子があるけれどお金が足りない」、「友だちに誘われてお菓子を万引する」、「店長に見つかり警察へ行く」、「両親が引き取りにきて、お店に謝りに行く」、「家族で話し合い、少年が大切なことを学ぶ」でした。途中、

主人公がとるべき行動を考えさせる質問が随所に織り込まれ、児童は紙芝居を見ながら正しい答えを真剣に考えていました。

お話の最後は、父親が息子に三つの大切なこと「①自分のものと他人のものを区別する。②自分で考える。そして正しい行動をとる。③強い心を持つ。」を伝えました。

児童は大きな声で、この三つの大切なことを復唱していました。「守ることのできる人、手を挙げてください。」との呼びかけに、全員しっかり手を挙げていました。



携帯電話教室

大和市立鶴間中学校

携帯電話に関わるトラブルが増えてきていること、携帯電話を持っている生徒にマナーをしっかりと身につけて欲しいという思いから、七月十九日（火）に鶴間中学校では二・三年生を対象に携帯電話教室が開催されました。講師を電話会社から招き、講話を聞きました。

プレゼンテーションソフトにより、スクリーンに大きく映し出されたのは実際の携帯電話の画面です。それを見ながらの説明はとても分かりやすかったと生徒たちに好評でした。

実際にあった事件を元に話される内容に生徒は興味津々です。迷惑メール、偽サイト、ワンクリック詐欺、プロフに載せた写真の話など、携帯電話を持っている生徒も持っていない生徒もその危険性についてしっかりと理解できました。パンフレットも配られ、復習がきちんとできるようになっていきます。

二年生に感想を聞きました。ある男子は「携帯電話を持っているのは、男子でほしい半分くらいかな。女子はほとんど

九割くらい持っているんじゃないか。」とのこと、今回の教室はとても役に立つことになりました。

ケータイ トラブル対策ガイド



また、携帯電話を持っているという女子は「個人情報や写真をプロフにあげていたので、自分はずごく危ないと思った。携帯電話を聞いてからはやめようと思いました。」「分かりやすい説明だった。プログラの説明を聞いて危ないことがあるんだなと思った。」と話していました。「持っていないという男子は「持ったら気をつけようと思った。」「そういう目には遭いたくない。」「持つと面倒くさそうだけど、やっぱり欲しい。」「などの感想を話してくれました。今回の携帯電話教室では、使用上のマナーについてしっかりと考えるよい機会となりました。



各校の
取り組み

地域に支えられて。 地域の方々と共に



被災地に 文房具を

大和市立中央林間小学校

中央林間小学校では、児童、保護者、教職員、地域の方が協力して東日本大震災の被災地に文房具を送る取り組みを行いました。



働いている

会員の方から、現地では、文房具、学用品が不足しているという状況を聞いたことにより、まず、「中林小 おやし達の会」による東日本大震災へのボランティア活動は今回が三回目となり、これまで二回は、会単独で取り組みましたが、今回は、小学生にも考えさせたいという会員たちの思いから、PTAと協力して行いました。



各家庭に協力をお願いし、筆記用具や学用品を持ってきていただきました。実際に集まった文房具は、紙、絵の具、筆箱、ノート、ファイル、本、ドリル、ペン、色鉛筆、消しゴムなどさまざまなものがありました。

五月七日（土）の仕分け作業当日は、教職員、保護者合わせ

て十一人ほどで熱心に仕分けをしていました。

集まった文房具は仙台のNPO法人を通じて被災地の学校へ配布してもらいました。

子どもたちは、同じ小学生が困っていることを実感し、「自分にも何かできないか」と考えるよい機会となったと思います。

地域とともに 環境を守る

大和市立下福田小学校

下福田小学校では、六月七日（火）に「下福田清掃の日」として、全校児童と教職員と保護者、地域の方が協力して、清掃活動をしました。児童が清掃を終えた後も保護者と地域の方は引き続き校舎の周り、学校の周りで清掃活動を行いました。

学校の隣を流れる、引地川沿いの遊歩道の草刈をしてくださっている地域の方は、引地川、下福田子ども

の水辺協議会のみなさんで



す。秋には五年生の環境学習「引地川クリーン作戦」で、一緒に引地川の清掃にも参加しています。会長は「お手伝いを通して小学生とつながりができることで、地域の



の一員であることがわかってくれれば。」と話していました。

また、木の剪定を行って

くれている地域のボランティアグループもありました。三年ほど前から、木の剪定や昔遊びのボランティアを行っているそうです。「学校の中に入って作業をすることで、地域の小学生、学校のことがよくわかるようになった。」とグル



ープの方は話していました。児童、教職員、保護者、地域の方々が一体となって学校を作っていることが実感できる取り組みでした。

※バ...

校庭を利用する児童や地域の方々の目を楽しませてくれるきれいな花が花壇いっぱい咲いていました。



この花は、「市内の小学生に自然（花）とふれ合って欲しい」という願いから、イオンリーブル株式会社大和店より、市内小学校十九校に贈られたものです。花の種類は、ペチュニア、ベゴニア、マリーゴールド、インパチェンス等です。下福田小学校では環境美化委員の児童が分担して大切に植えて、世話をしているということです。

自ら学校を楽しもう！

大和市立南林間中学校

南林間中学校の校庭に立つと、すぐ目に入るのが、校庭北側にあるフェンスに取り付けられた「自ら学校を楽しもう！」の文字です。

これは、十年前に生徒会本部が全校生徒に呼びかけるためにつくったものです。南林間中学校の生徒は、このスローガンのとおり、日頃の学習はもちろん、学校生活を様々な場面で積極的に楽しんでいます。

活動の一部を紹介しましょう。

生徒会活動では、生徒会本部、福祉委員会などが中心となり、東日本大震災の義援金として、総額一〇万円以上の募金を達成し、神奈川新聞社



を通して被災地へ送りました。ペットボトルのキャップ集めなどの活動も積極的に行っています。

部活動も大変活発です。昨年度の実績では、ハンドボール部が関東大会に出場しました。今年度は、夏の大会で剣道男子団体と卓球女子個人が県大会出場を果たしました。

また、卓球女子個人は全日本卓球選手権大会（カテックの部）出場を決め、合唱部はTBS「ごっこ音楽コンクール」東日本優秀演奏発表会への出場を決めるなど、めざましい活躍をしています。

南林間中学校で活躍しているのは、生徒だけでは

ありません。

昨年、南林間中学校は創立三〇周年を迎えましたが、記念事業として行われた、「文化のつどい」の亀淵友香「コンサート」、また、三〇周年記念誌「南林間中学校の三〇年」発行にあたっては、PTAの方々に大変お世話になりました。

また、PTAの呼びかけによる「チョイボラ」活動（チョイットボランティア）として、保護者と生徒、教職員が協力をして正門等のペンキ塗りをしました。

南林間中学校は地域に支えられた学校でもあります。

毎年、総合的な学習の時間の一環として、一年生がリサイクルステーションでの体験学習を行っています。その際には地域の自治会の方々に、大変なご協力をいただいています。

このように、南林間中学校は、保護者の皆様、地域の方々の温かい支援の中で生徒が積極的に学習している学校です。

南林間中学校は、今年創立三一周年目に入り、これまでの伝統・歴史を糧に新たな未来に向かって歩み出しています。

これからも南林間中学校をよろしく願います。

大和市教育委員会

教育フォーラムを開催しました

九月三日（土）、「自ら成長する力」の育成を求めて

学校・家庭・地域の連携」をテーマに、第八回教育フォーラムを開催しました。強い風の吹く中、百五十名を超える参加者を迎えての開催となりました。

はじめに、「大和市の教育の未来を考える」子どもの育ちに学校・家庭・地域はどうかわるか」という演題で、横浜国立大学高橋勝教授に、学校の役割や子どもの成長

長について基調講演をいただきました。

次に、大和市学校教育基本計画（後期）素案の説明が事務局よりありました。

最後に、コーディネーターに高橋勝教授を、パネリストに横浜国立大学重松克也教授、深見小学校PTA会長浅見正雄さん、青少年相談員保田和子さん、南林間中学校岩下正文校長の四名をお迎えしたパネルディスカッションでは、子どもたちに必要な「自ら成長する力」や学校・家庭・地域のできることについてそれぞれの立場から意見が交わされました。



フロアからも大和市の教育について貴重な意見をいただくことができました。

「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽に読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。